

[専門科目 (物理学)]

[問題 1] 以下の文章を読み、問 A～Dに答えよ。解答用紙には結果だけではなく、計算過程も記述すること。

質量 m 、振動数 ω をもつ一次元調和振動子のハミルトニアンは

$$\hat{H} = \frac{1}{2m} \hat{p}^2 + \frac{m\omega^2}{2} \hat{x}^2 \quad (1)$$

により与えられる。ここで \hat{p} は運動量演算子、 \hat{x} は位置演算子である。

これらの演算子の正準交換関係は

$$[\hat{x}, \hat{p}] (\equiv \hat{x}\hat{p} - \hat{p}\hat{x}) = i\hbar, \quad (2a)$$

$$[\hat{x}, \hat{x}] = [\hat{p}, \hat{p}] = 0 \quad (2b)$$

により与えられる。

問 A 運動量演算子の位置座標表示 $\hat{p} = -i\hbar \frac{\partial}{\partial x}$ を用いて一般の波動関数 $\phi(x)$ に対し式(2a)の交換関係 $[\hat{x}, \hat{p}]\phi(x) = i\hbar\phi(x)$ が成り立つことを示せ。

問 B 下式(3)により定義される生成・消滅演算子 \hat{a}^\dagger, \hat{a} の交換関係 $[\hat{a}, \hat{a}^\dagger] = 1$ を導け。(下式では $\alpha = \sqrt{m\omega/\hbar}$ とおいた)

$$\hat{a} = \frac{\alpha}{\sqrt{2}} \left(\hat{x} + \frac{i}{m\omega} \hat{p} \right) \quad (3a)$$

$$\hat{a}^\dagger = \frac{\alpha}{\sqrt{2}} \left(\hat{x} - \frac{i}{m\omega} \hat{p} \right) \quad (3b)$$

また式(1)のハミルトニアンが個数演算子 $\hat{N} \equiv \hat{a}^\dagger \hat{a}$ を用いて

$$\hat{H} = \hbar\omega \left(\hat{N} + \frac{1}{2} \right) \quad (4)$$

と書かれることを示せ。但し、式(3)より得られる関係式

$$\hat{x} = \frac{1}{\sqrt{2}\alpha} (\hat{a} + \hat{a}^\dagger) \quad (5a)$$

$$\hat{p} = -\frac{i\hbar\alpha}{\sqrt{2}} (\hat{a} - \hat{a}^\dagger) \quad (5b)$$

を使ってよい。

問 C $\psi_n(x)$ が個数演算子 \hat{N} に対する固有方程式 $\hat{N}\psi_n(x) = n\psi_n(x)$ を満たす場合について、 $\hat{a}\psi_n(x)$ と $\hat{a}^\dagger\psi_n(x)$ も \hat{N} の固有関数で、それぞれ固有値は $n-1$ と $n+1$ であることを示せ。

以降の問いでは、 $\hat{a}^\dagger\psi_n(x), \hat{a}\psi_n(x)$ が規格化因子も含め

$$\hat{a}^\dagger\psi_n(x) = \sqrt{n+1}\psi_{n+1}(x), \hat{a}\psi_n(x) = \sqrt{n}\psi_{n-1}(x) \quad (6)$$

と書かれることを使ってよい。但し、 \hat{N} の固有値 n は0または正の整数 ($n = 0, 1, 2, \dots$) であり、 $\psi_0(x)$ に対しては $\hat{a}\psi_0(x) = 0$ である。

問 D 式(3a)の \hat{a} の固有関数 $\varphi_\lambda(x)$ について考える。以下(i)~(iii)に答えよ。但し、

φ_λ は固有方程式 $\hat{a}\varphi_\lambda = \lambda\varphi_\lambda$ を満たし、 $\varphi_\lambda(x) = N_{|\lambda|}e^{\lambda\hat{a}^\dagger}\psi_0(x)$ と書けるこ

とが知られている ($e^{\lambda\hat{a}^\dagger} \equiv \sum_{n=0}^{\infty} \frac{(\lambda\hat{a}^\dagger)^n}{n!}$ とし、 $N_{|\lambda|}$ は規格化因子である)。

\hat{a} は非エルミート演算子であるため固有値 λ は一般に複素数である。

(i) 式(3a)の \hat{a} について、座標 x を $\xi \equiv \alpha x$ に変換し ξ のみの式に書き換えよ。

(ii) (i)で得られた表式を用いると固有方程式 $\hat{a}\varphi_\lambda = \lambda\varphi_\lambda$ は ξ についての微分方程式になり、その一般解は $\varphi_\lambda(\xi) = C_\lambda e^{g(\xi - \sqrt{2}\lambda)}$ の形で表される (但し、 C_λ は一般解の任意定数)。関数 $g(\xi - \sqrt{2}\lambda)$ の表式を求めよ。

(iii) (ii)の解の形から、一次元調和振動子の基底状態 $\psi_0(x)$ ($\hat{a}\psi_0(x) = 0$) を平行移動したのも、 \hat{a} の固有関数になっていることがわかる。時刻 $t = 0$ における始状態を $\varphi_{\lambda_0}(x)$ とすると、式(4)のハミルトニアンのもとでの時刻 $t(> 0)$ における波動関数 $\Phi(x, t)$ は、 \hat{a} の固有関数 $\varphi_\lambda(x)$ の λ が $\lambda(t) = \lambda_0 e^{-i\omega t}$ のように時刻 t に依存した関数 $\varphi_{\lambda(t)}(x)$ を用いて以下のように表されることを示せ。

$$\Phi(x, t) = e^{-\frac{i\omega t}{2}} \varphi_{\lambda(t)}(x) \quad \left(\text{但し, } i\hbar \frac{d}{dt} \Phi(x, t) = \hat{H} \Phi(x, t) \right)$$

[問題 2] 以下の文章を読み, 問 A~D に答えよ. 解答用紙には必要に応じて結果だけではなく, 計算過程も記述すること.

半径 R , 高さ L の円筒容器が, 水平方向に挿入された無限に薄い板により 2 分割されている. 仕切られた空間は, それぞれ単原子分子の理想気体 A (質量 m_A , 個数 n_A) と B (質量 m_B , 個数 n_B) で満たされている. この時の 2 つの気体の温度と圧力は等しく T, P とする. A と B の気体の占める体積を V_A, V_B とするとその割合は $V_A : V_B =$ I である.

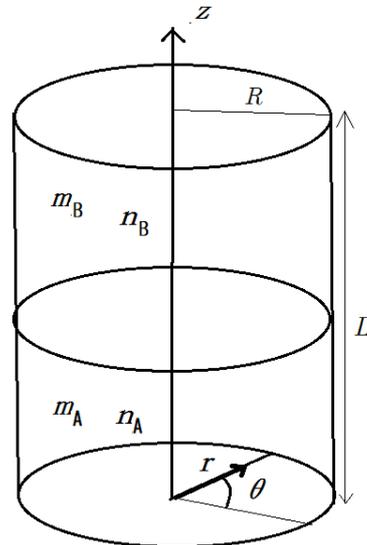


図 1 仕切られた円筒容器

気体 A の分配関数 (Z_{sep}^A) は円柱座標系での原子 j の座標を r_A^j, θ_A^j, z_A^j , 運動量を $p_{r_A}^j, p_{\theta_A}^j, p_{z_A}^j$ とすると, 位相空間の体積積分は正準変換で不変であるから,

$$Z_{sep}^A = \frac{1}{n_A! h^{3n_A}} \prod_{j=1}^{n_A} \int_0^R dr_A^j \int_0^{2\pi} d\theta_A^j \int_0^L dz_A^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{r_A}^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{\theta_A}^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{z_A}^j e^{-\frac{1}{kT} H_A(\mathbf{p}_A^j, \mathbf{q}_A^j)} \quad (1)$$

より計算される. ここで, h はプランク定数, k はボルツマン定数, 気体 A の原子 j のハミルトニアン $H_A(\mathbf{p}_A^j, \mathbf{q}_A^j) \equiv H_A(p_{r_A}^j, p_{\theta_A}^j, p_{z_A}^j, r_A^j, \theta_A^j, z_A^j)$ は

$$H_A(\mathbf{p}_A^j, \mathbf{q}_A^j) = \frac{1}{2m_A} \left[(p_{r_A}^j)^2 + \left(\frac{p_{\theta_A}^j}{r_A^j} \right)^2 + (p_{z_A}^j)^2 \right] \quad (2)$$

で与えられる. 気体 A の分配関数は体積を V_A とおくと, 公式 $\int_{-\infty}^{\infty} dx \exp(-\alpha x^2) = \sqrt{\pi/\alpha}$ を用いて $Z_{sep}^A =$ ア と計算される. 分配関数 Z に対してヘルムホルツエネルギーは $F = -kT(\ln Z)$, 圧力は $P = -\partial F / \partial V$, エントロピーは $S = -\partial F / \partial T$ と定義されている. 公式 $\ln N! = N \ln N - N$ (N は整数で

N 1)を用いると、気体 A のヘルムホルツエネルギーは $F_{sep}^A = \boxed{\text{イ}}$ 、圧力は $P_{sep}^A = \boxed{\text{ウ}}$ 、エントロピーは $S_{sep}^A = n_A k \left(\frac{5}{2} - \ln n_A + \ln \frac{V_A (2\pi m_A kT)^{3/2}}{h^3} \right)$ と計算される。

次に仕切り板を取り除き、圧力や温度を保ったまま 2 つの気体を完全に混合させた。2 つの気体原子の間に相互作用がないとすると、この時の混合気体の分配関数は $Z_{mix} = Z_{mix}^A Z_{mix}^B$ および

$$Z_{mix}^A = \frac{1}{n_A! h^{3n_A}} \prod_{j=1}^{n_A} \int_0^R dr_A^j \int_0^{2\pi} d\theta_A^j \int_0^{\boxed{\text{III}}} dz_A^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{r_A}^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{\theta_A}^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{z_A}^j e^{-\frac{1}{kT} H_A(\mathbf{p}_A^j, \mathbf{q}_A^j)}$$

$$Z_{mix}^B = \frac{1}{n_B! h^{3n_B}} \prod_{j=1}^{n_B} \int_0^R dr_B^j \int_0^{2\pi} d\theta_B^j \int_0^{\boxed{\text{IV}}} dz_B^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{r_B}^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{\theta_B}^j \int_{-\infty}^{\infty} dp_{z_B}^j e^{-\frac{1}{kT} H_B(\mathbf{p}_B^j, \mathbf{q}_B^j)}$$
(3)

より計算される。円筒容器の全体積を V とすると、全体のヘルムホルツエネルギーは $F_{mix} = \boxed{\text{エ}}$ 、エントロピーは $S_{mix} = \boxed{\text{オ}}$ と計算される。

問 A 文中の空欄 $\boxed{\text{I}}$ ~ $\boxed{\text{IV}}$ を n_A , n_B , L を適宜用いて記せ。

問 B 文中の空欄 $\boxed{\text{ア}}$ ~ $\boxed{\text{オ}}$ に当てはまる数字や数式を記せ。

問 C A, B を混合する前後で変化したエントロピーは、分離状態でのエントロピーを S_{sep} とすると、 $\Delta S = S_{mix} - S_{sep}$ と表される。 ΔS を n_A , n_B , V_A , V_B を用いて表し、その正負よりエントロピーの増減を調べよ。

ここで、温度を保ちながら、円筒容器と中の気体を一定の角速度 Ω で、一様に回転させた。この時気体 A の原子 j のハミルトニアンを、回転座標系上にとった円柱座標で表すと $H'_A(\mathbf{p}_A^j, \mathbf{q}_A^j) = H_A(\mathbf{p}_A^j, \mathbf{q}_A^j) - \Omega p_{\theta_A}^j$ であり、完全平方形に直すと

$$H'_A(\mathbf{p}'_A, \mathbf{q}'_A) = \frac{1}{2m_A} \left[(p'_{r_A})^2 + \left(\frac{p'_{\theta_A}}{r'_A} - m_A r'_A \Omega \right)^2 + (p'_{z_A})^2 \right] - \frac{1}{2} m_A r'^2_A \Omega^2 \quad (4)$$

である. $\xi = r^2$ と変数変換し, $2rdr = d\xi$ に注意し, 分配関数を計算すると $Z'_{mix} =$

, ヘルムホルツエネルギーは $F'_{mix} =$ となる. $V = \pi LR^2$ より

$dV =$ dR であるから, 円筒の側面に及ぼす気体 A の分圧

$P'_{mix} = -\partial F'_{mix} / \partial V$ は, $P'_{mix} =$ である.

問 D 文中の空欄 ~ に当てはまる式を記せ.